

工業技術センター・ラボツアーを開催

2月24日(土)に、当センター初のラボツアーを開催し、県内企業等から63名の参加がありました。

今回の開催は、当センターの研究内容及び技術支援の現場を広く知ってもらう目的で、7つの研究部から食品工業部と機械技術部の2部について、県内中小企業を主体に公開しました。

両部の研究室や実験棟へ案内し、主な研究開発や技術支援について事例を交えながらの説明や、保有する機器・装置の紹介を行いました。

食品工業部では、焼酎の小仕込み試験や焼酎蒸留装置の説明及び保有する微生物等の紹介を行い、参加者からは今後の技術支援に期待が寄せられま

した。

機械技術部では、精密測定機器や溶接技術の指導等についての説明や、実際に目前で材料強度試験を行い、参加者の多くが装置の動作等を興味深く観察していました。

当日のアンケートでは、全員が今回のラボツアーに参加してよかったとの回答で、内容や説明についても、ほとんどの人からわかりやすかったとの意見がありました。実際の研究開発や技術支援の現場を見てもらいながら、関心を持って説明を聞いていただき、今回のラボツアーが好評であったことがうかがえました。



食品工業部1



機械技術部1



食品工業部2



機械技術部2

かごしま染色研究会で草木染め講演会を開催

2月22日(木)当センター大会議室で「かごしま染色研究会」を開催しました。この研究会は当センターが主宰するハイテク研究会の一つです。

今回は、講師として草木染めの第一人者である草木染研究所柿生工房(川崎市)主宰 山崎和樹氏に「草木染めの特徴について」の演題で、染色の実演も交えた講演会となりました。また、山崎

先生が数多くの草木でこれまで染色された作品も会場内に展示しました。

研究会会員以外の染色関係者も多く、57名の参加がありました。特に、先生の確固とした理念に基づく草木染めに関する考え方や情熱は、参加者にとってたいへん興味深く、今後のものづくりや研究活動にたいへん有用となる講演内容でした。



講演



草木染め実演

環境ビジネス連携フォーラム in 鹿児島 を開催

3月6日(火)に鹿児島大学稲盛会館において、九州地域環境・リサイクル交流プラザ(K-RIP)とかごしま水処理研究会(ハイテク研究会)の主催で「環境ビジネス連携フォーラム in 鹿児島」を開催しました。同フォーラムは、他に鹿児島大学のバイオマス資源利用部会との共催で、九州経済産業局、鹿児島大学産学官連携推進機構、鹿児島県の後援のほか、当センターで毎年実施している「工場排水管理技術講習会」も兼ね、産学官の

連携による開催となりました。

参加者は企業・大学・自治体の環境担当及びその関係者など234名で、環境問題に対する関心の高さがうかがえました。

フォーラムの内容は、基調講演「3Rとバイオマス資源」に続き、県内の有機性排水、焼酎粕、家畜ふん尿、余剰汚泥の減容、鶏糞発電などの処理・現状が報告されました。また、「南九州バイオマスの新展開」について討論も行われました。



講演



討論

金属材料講習会を開催

3月15日(木)に当センターで「金属材料講習会」を開催しました。毎年、素材開発部が担当し、材料分野の技術力向上を目的に開催しています。今回は、当センターの瀧石所長が、金属材料の研究に長年携わって得られた技術蓄積をもとに「やさしい鉄鋼材料の選び方」について講演しました。熱処理による硬化と割れが発生する材料の性質を説明し、鉄鋼材料を使用するうえで価格の安いものから、取扱いの良いものまで、材料選びの考え方をわかりやすく講演しました。



講演1

また、塑性加工分野の最前線でご活躍の鹿児島大学工学部機械工学科長 中西教授が、「塑性加工技術の活用法」について講演されました。金属材料の変形特性や組織変化を適切に利用することの重要性を説明され、自動車部品などに生産性の高い塑性加工技術を適用して高品質で低コストな加工を実現した例などを紹介されました。

県内の金属関連企業等から80名の出席者があり、両講師のものづくりに直結するアドバイスや体験談を熱心に聴講していただきました。



講演2

「銅合金中の鉛除去方法」が特許登録

株式会社九州タブチ（代表取締役 桑野正敬）及び末吉秀一教授（鹿児島大学）と共同で特許願していました「銅合金中の鉛除去方法」が、1月26日に特許登録（特許第3909308号）されました。

これは、鉛を含んでいる黄銅などから鉛を除去する技術です。その方法は、黄銅を加熱して溶か

し、鉛と化合する添加剤を加えて生成された鉛化合物だけを分離・除去します。これにより、鉛の除去率は80%に達し、鉛の規制に対応する量まで含有量を減らすことができます。スクラップとなった黄銅などを、鉛フリー材料として再利用することに結びつくため、銅資源の有効利用方法として、期待されています。

当センターの新規焼耐用酵母開発グループがグッドスタッフ表彰を受賞

当センター食品工業部の新規焼耐用酵母開発に携わったグループ（代表 瀬戸口眞治主任研究員）が、新技術・新製品の開発普及等において顕著な功績をあげた職員に県が表彰するグッドスタッフ表彰のグッドジョブ賞を受賞しました。

